

第168回 世界恐慌後のヨーロッパ

1 イタリアのファシズム

- 第一次世界大戦で勝利国となったイタリアだが、領土をあまり獲得できず、ヴェルサイユ体制に不満を持っていた。
- また経済の混乱から北イタリアでは、社会党左派（後のイタリア共産党）の指導によりストライキが発生するなどしていた。



ムッソリーニ
イタリアの独裁者。
頭が良く演説も巧み
であった。

- ◆ () (在任 1922～1943年)
- 1919年、ムッソリーニは、議会制民主主義を否定する () をかかげ、() を結成した。
→1922年、() を行い、国王の指示で政権の座についた。
→ファシズム大評議会を最高議決機関とし、() を確立した。

<世界恐慌前のムッソリーニの対外政策>

- 1924年、ユーゴスラヴィアから () を奪い、併合した。
- 1926年、() に進駐し、保護国とした。
- 1929年、() を結び、ローマ教皇と和解した。
→ローマ市内に () が成立することを認めた。
- 対外的には成功をおさめたが、世界恐慌でイタリア経済は悲惨な状況となった。



ローマ進軍

ファシスト党独自の武装組織を黒シャツ隊という。2万人の黒シャツ隊は、政権奪取を目的にローマへ向かって行進した。



ローマ式敬礼

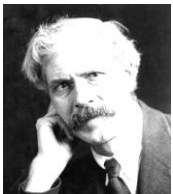
古代ローマ帝国の栄光の復活を目指したムッソリーニは、右腕を上げるローマ式敬礼を取り入れた。ヒトラーが真似をしたことで有名となった。



ラテラノ大聖堂(ラテラン大聖堂)

教皇領の歴史はしっかりおさえておく必要がある。どうやって成立し、どうやって消滅し、どうやって復活したかまでを確認。

2 世界恐慌とイギリス



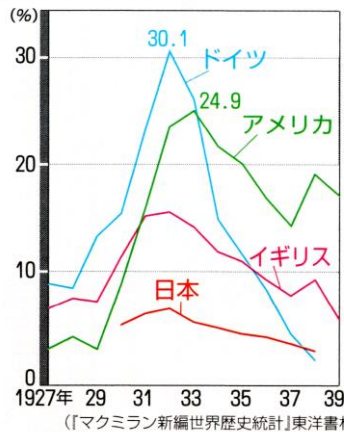
マクドナルド
失業保険の削減は労働党内の支持を得られず、労働党から除名された。そこで保守党などと組んで再び首相となった。

- ◆ () (第2次) (労働党) (在任 1929～1931年)
- 1929年、世界恐慌の影響からイギリスも大不況となり、失業者が激増した。
- 1931年、政府の支出を抑えるため () にふみきった。
→与党の労働党が反対したため、内閣総辞職となった。
- ◆ () (挙国一致内閣) (在任 1931～1935年)
- 1931年、() を行い、ポンドの切り下げを行った。
- 1932年、カナダで () (イギリス連邦経済会議) が開かれ、() 方式をとることが採択された。
- 1933年、ロンドン世界経済会議が開かれたが、成果はなかった。

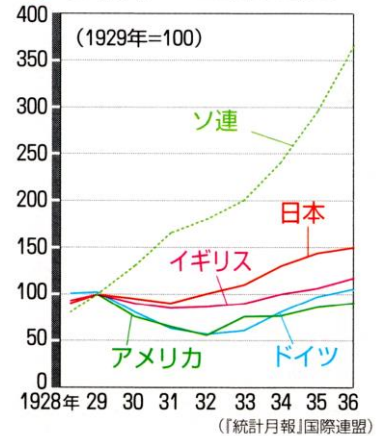
<ブロック経済について>

- ・ヨーロッパの大国は、不況で自国の製品が売れないため、本国とその植民地で高い関税を設け、他国の製品が入ってこないようにした。
→イギリスの()、フランスの()、アメリカの()などが知られている。
- しかしドイツ・イタリア・日本など植民地をあまり持たない国は、侵略して新たな植民地を獲得することで、自分たちのブロックを作ろうと考えた。

A 各国の失業率



B 恐慌中の工業生産



3 世界恐慌とソ連

- ・1929年、アメリカで世界恐慌がはじまり、世界経済は大混乱となった。
→しかしソ連は資本主義経済と交流がなく、世界恐慌の影響を受けなかった。
- ・このころ()は完全な独裁者となっており、スターリンへの個人崇拝が強まるとともに、反対派への()も大規模に行われた。
→また少数民族の反発を恐れて、中央アジアなどへの強制移住を行った。
- ・1933年、()が開始された。
→第1次五カ年計画の反省から、多少は消費物資の生産も配慮された。
→ソ連の計画経済は、世界恐慌に苦しむアメリカ、ドイツ、日本に影響を与えた。
- ・1933年、()大統領時代のアメリカが、ソ連を承認した。
→1934年、ソ連の()加入が認められた。
- ・1936年、()が制定された。
→信教の自由や民族の平等など民主的な内容だったが、スターリン本人に守るつもりが全くなく、ロシア共産党の一党独裁も変わりがなかった。
- ・1938年、第3次五カ年計画が開始された。



レーニンとスターリン

スターリンは、トロツキーの写真を消す一方で、あたかも自分とレーニンが親しかったかのような写真を公開していた。



個人崇拝のポスター

スターリンは、自分が聖人であるかのようなポスターや映画をたくさん作った。世界史上でも屈指の「ヤバイ」性格の人物である。



処刑された人の死体

実態は今もって不明だが、約1200万人が逮捕され、少なくとも300万人が殺されたとされる。これらは1956年のフルシチョフによるスターリン批判以降、徐々に明らかになった。